

スーパースマイル

2015年 秋号 (vol. 83) くしま矯正歯科通信

545-0011 大阪市阿倍野区昭和町 1-21-22 徳山ビル 4F

TEL 06-6628-8148 FAX 06-6627-0878

info@kushima-ortho.com

<http://www.kushima-ortho.com>



大雨、火山の爆発と日本中 異常な状態の続く毎日ですが、ようやく 本来の気持ちの良い季節になりました。災害にあわれている方々には心からお見舞い申し上げます。

例年秋は学会が続きます。



9月上旬には日曜会の講演会があり、さまざまな新しい歯科治療についての講演を聞きました。9月中旬には近畿矯正歯科研究会があり院長・副院長は症例展示を行いました。院長は80症例の中で“話題賞”を受賞しました。参加した2名の歯科衛生士も症例を見たり講演を聞いたりして充実した一日だったようです。

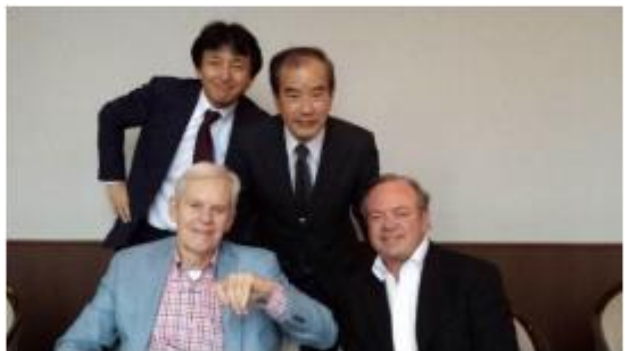


9月下旬には神戸でアレキサンダー研究会があり、和彦先生は昨年7つのカテゴリーすべての症例に合格したので会から依頼され口演発表しました。



第31回アレキサンダー研究会例会 平成27年9月24日 於 ANAクラウンプラザホテル神戸

アレキサンダー先生、クリフ先生、
研究会会長の神谷 先生。



11 月には福岡で日本矯正歯科学会が開催され院長、副院長が出席します。いずれの学会も最先端の治療の考え方の講演があり興味深いところです。友人の寺西さん（寺西家 阿倍野 長屋・町家）から“あのころの阿倍野”という素晴らしい本を寄贈していただきましたので待合室に置きました。お読みください。ところで最近当院スタッフの寿退職が続きました。そこで元スタッフの高尾（花井）亜琴さんと、現在当院に実習に来ている 行岡学園の歯科衛生科の主任教員を長年されてきた山本洋子さんにも診療に加わっていただくことになりました。また新人の衛生士 寺田 愛さんと歯科助手 和田真季さんの 2 名を採用しました。皆さん熱心な方ばかりで喜んでおります。

3 名の方に自己紹介を書いてもらいましたのでお読みください。



和田 真季 (わだ まき)

はじめまして。受付・歯科助手として、この夏からくしま矯正歯科でお世話になる和田 真季と申します。歯科医院で働くことも、受付の業務に就くことも初めての経験ですが、歯医者にどうしても付き物の“恐怖心”が少しでも薄くなりますよう精一杯、気配りのあるサポートができるよう心掛けますので、よろしくお願ひ致します。

寺田 愛 (てらだ めぐみ)

皆様、初めまして。この夏からくしま矯正歯科で働かせて頂いています歯科衛生士の寺田愛です。この春三月になにわ歯科衛生専門学校を卒業したばかりです。歯科衛生士として一年目でまだまだ未熟者ですが、これから学んでたくさんの事を吸収していきたいと思ひます。なにとぞよろしくお願ひいたします。

山本 洋子 (やまもと ようこ)

7 月からお世話になっている山本です。歯科衛生士の資格をとって 40 年になりますが、臨床経験は少なく以前は、養成所で勤務してました。保健指導が得意です。お口の健康や予防について尋ねてください。陶芸と料理が趣味で、毎朝手作りの器を使ってバランスを考え実践しています。非常勤ではありますが、よろしくお願ひ申し上げます。

Q & A

矯正相談の患者様から様々な質問をいただきますが、同じような質問もいくつかありますので、私の考えを述べさせていただきます。参考になれば幸いです。

● 矯正の相談料金が無料のところもあります。

そういう診療所があることはもちろん知っています。当院では口腔内写真や 顔面を観察し 問診などから適切な治療の方法を約 20-30 分説明しています。また矯正の本もお渡ししています。私の 45 年にわたる矯正臨床の経験から得た、患者さまに合うと思われる治療方法や考え方を責任を持ってしっかりとお伝えしているのです。

● このまま矯正しなかったらなにか問題が出ますか？

患者様の立場では矯正のする動機は“見た目”がほとんどです。矯正の目的はもちろん見た目を良くするのがありますが、咬みやすさ、磨きやすさがあります。当院では 2 世代、3 世代にわたって矯正をする方が多くいますが、“私がして良かったので子供にもしてやりたい”と言われる事が多いです。

● 痛みはありますか？

治療終了後の感想を聞くと子供さんのほとんどが“痛かったけど頑張って良 かった”と書いています。私自身も装置を入れた時少し痛かったです。日進月歩で矯正材料は良くなっていますが、生きている体の中で歯を動かすのですから、ある程度の痛みはやむをえません。痛ければ“動いてくれている”と前向きに考えることですね。

● 永久歯を抜歯しないで治りませんか？

“うちは抜歯しないで治します”という事をうたい文句にしている診療所があります。患者様は飛びつくでしょう。当院では 6 割が抜歯、4 割が非抜歯です。これは日本の矯正専門医の平均です。

たとえばひどい凸凹のある場合、永久歯を抜かないで無理に顎を広げると 欧米人と異なり

短頭型である日本人の場合には、奥歯の隙間がなくなり問題をおこしたり、口元が出たり、後戻りしたりする事が少なくありません。

もちろん抜歯か非抜歯か迷う場合で成長のある子供の場合には、最初非抜歯で行い、その後再診断して方針を決めていきます。

● 取り外しする装置で治りませんか？

歯はそれぞれ大きさも形もすべて異なり、それらがきっちりと噛むようになっています。そういった 28 本の歯を正しく咬ませるのに床装置では治せません。どうしても一本一本の歯に装置を付ける必要があります。

● 装置がつくと見た目が気になるのですが・・・。

方法としては、金属でなく透明感のあるブラケットを表側につける方法と、表でなく裏側につける方法があります。当院ではほとんどの患者様は表側からの審美性の高い装置を付けてもらっています。最近の装置は自然になじむような透明感があります (A)。それでも嫌な方の場合には裏側に入れます。(B) が表の装置に比べ費用は高くなります。



欧米では昔から矯正するのが一つのステータスになっています。隠れて見えないのではなく、堂々と人に見えるようにして審美ではなく金属の装置も良く使われます。子供の場合にはむしろカラフルにして目立つようにすることもあります。装置を入れて動いていくのを楽しんで欲しいと思います。

● 支払った治療費は医療控除になりますか？

成長期の子供の矯正は対象になるが、大人では美容なのでならないと言われることがあります。また予防の為では対象にならないと言われるます。

しかしながら大人でも治療する事によりさまざまな利点があると我々が診断書を書きますと、認めてくれる場合もあります。

● 親知らずは絶対に抜歯しないといけませんか？

きれいに並んだ歯並びを またずらしてしまう原因の一つが親知らずです。特に水平に生えると その前の歯に力がかかり 下顎の前歯がガタガタになることがあります。16歳以上ですと健康保険が適用できるので、抜歯してもらっています。抜いた直後は一般的にかなり腫れますので 試験などのない時期に抜くようにお伝えしています。

● 先生によって治療結果が異なりますか？

時々“先生は〇〇大学だから来ました”と言われてご相談に来られる方がいます。あるいは矯正とインプラントは〇〇大学出身の方にしてもらおうと決めているという方がおられます。はっきり言って出身校と治療技術との相関係数はゼロです。卒業して歯科医師になりその後いかに真面目に治療に取り組んだかどうかだと考えています。矯正の場合でも専門医という資格がありますが、大学と関係なく取得しているのが実際です。その先生の仕事に対する考え方が技術を左右すると言えると思います。